つながり耕し合う
ちいさなしあわせ

だれもが主役

誰かの「好き」や「得意」は、
きっと誰かの支えになる。
互いに支え、支えられる、そんな
ケアが循環するあたたかな場所。

つながり、育ち合う

幸せな暮らしはつながりの中に。
年齢、立場、障がいや国籍
あらゆる垣根を超えた豊かな
つながりの中でともに育ち合う

遊び、暮らし、学ぶ

かけがえのない一度きりの人生を
楽しむための楽力を。その種は、
遊びの中に、そして衣食住を中心
とした日々の暮らしの中に。

風と土

ただいま、おかえりがこだまする地域のみんなの居場所

詳しい活動はInstagramから！

霧島市隼人町神宮1-13-23
風と土 で検索！
kazetotsuchi2024@gmail.com

誰もが自由に自分らしく過ごせる第三の居場所づくり。

誰もが自由に自分らしく幸せに暮らせる社会を創りたい。

そう願いを込めて、こどもをまんなかにした、地域の第三の居場所づくりを行なっています。

活動のきっかけは長女の不登校でした。

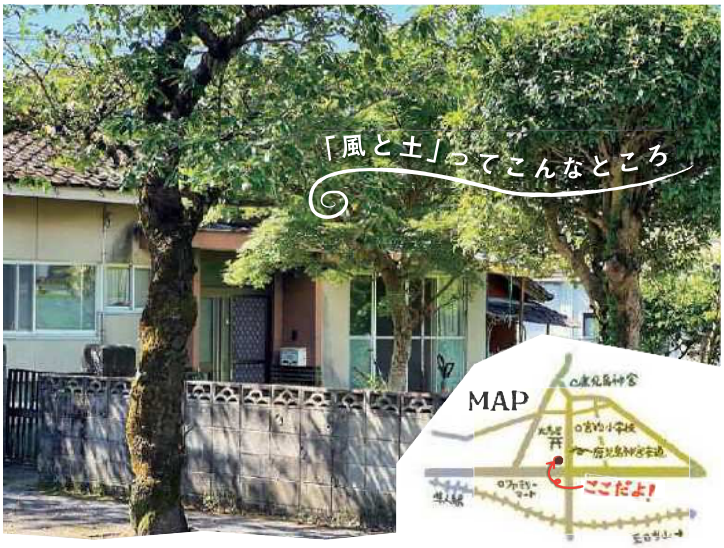
学校内の厳しい校則や同調圧力、他者との比較に悩みを抱え、さらに、学校や家庭以外での社会的な繋がりが絶たれたことで、子どものみならず私たち親も孤立感を深め、強い生きづらさを感じていました。身近でも同じように不登校やひきこもりで苦しむ家族の沢山の声を聴き、みなさんが人や地域との繋がりを必要とされていました。また、ひとりの医療従事者としてコロナ禍の医療現場で感じた社会への強い違和感もきっかけの一つでした。社会全体に蔓延した「感染対策」という大義名分の下、誰もが自由を奪われ、大切な人との繋がりが最も必要な場面にも関わらず、一人で病いや障がいに苦しみ、今際の際で一人寂しくこの世を去る姿を間近で見ながらも、力になれない自分自身に強い無力感や苛立ちを覚えていました。

この、長女の不登校・コロナ禍の体験が私の人生観を大きく問い直す機会となり、改めて、幸せで豊かな暮らしは人と人との多様な繋がりの中にあると確信し、まず自分にできることは、子どもも大人も学校や家庭や職場以外で、安心して自由に自分らしく居られる居場所を創ることだと強く感じ、現在の活動をはじめるに至りました。

社会の映し鏡である子どもたちが幸せを感じられる居場所。

そして、子どもたちが幸せで健やかな育ちには欠かすことのできない、地域の多様で豊かな人と人との繋がりを育み、年齢やあらゆる立場を超えて、共に支え・支えられながら、幸せな暮らしを耕し合える、そんな地域のプラットホームとなること強く願いながら活動をしています。

風と土 代表
瀬口康平



舞台は築一〇〇年を超える古民家

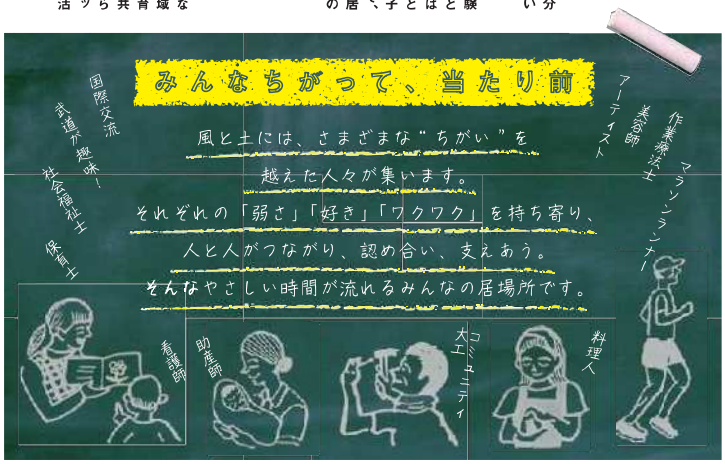
鹿児島神宮参道の入口にあり、元は桜島の大正噴火で埋もれた建物を桜島からこの地へと運び再建築された歴史ある建物。

受け継がれてきた想い

四百年前に薩摩・島津家より賞い受けた土地で、薩摩藩馬預に鹿児島神宮の氏子総代も代々務め、近年では商店として地域を賑わいをつくってきた場所でもあります。家の主人を失ってからも管理は欠かさず、永い歴史の中で大切に守られてきました。これからも誰かのため、先祖が喜ぶ場所であって欲しいと大家さんの願いがあります。

そして私たちへ

わたしたちも大家さんの想い、鹿児島神宮の神さま、そして先人たちの歴史や文化を大切に受け継いでいきます。この場で希望の種を運ぶ"風の人"と、根を張り育む"土の人"が交わり合い、地域に豊かでしあわせなあたらしい風土を創れますように。

みんなちがって、当たり前

風と土には、さまざまな"ちがい"を
越えた人々が集います。
それぞれの「弱さ」「好き」「ワクワク」を持ち寄り、
人と人がつながり、認め合い、支えあう。
そんなやさしい時間が流れるみんなの居場所です。